

PROGRAM NOTE

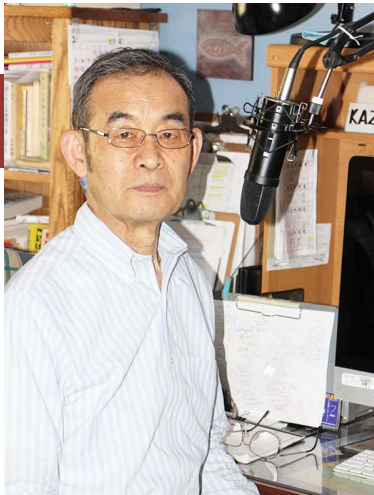
2017年7月

アリゾナ BCL 談話

日本短波クラブ

大武逞伯

JSWC-0107



たまらない場所のようです。

今日は、テキサス州のダラスから、アリゾナ州のツーサンへ飛んで来ました。約2時間半の旅で、日本でいうと羽田から沖縄までと同じです。しかし、時差が2時間あるため、到着時間は出発時間+30分という奇妙なことになっています。アリゾナ州は、米国の中で数少ない夏時間を採用しない州であるため現在はロスなどのあるカリフォルニア州と同じ時間となっているのです。しかし、明日帰る時は、時差が加算されるので、5時に出て9時半に着くことになります。ツーサン空港へ着く直前、米空軍の飛行場のそばを飛びましたが、そこには今まで見たこともない数の軍用機が駐機していました。日本の自動車輸出港で船に積む前に整然と並べられた乗用車の風景を思わせるものでした。ツーサンは湿度が殆どなく、機材の保管に適した土地であるため、このように大量の航空機材が保管されているようです。尾崎先生のお話では、一部は航空機博物館になっていて、見学コースもあるそうです。とにかく米空軍の昔からの飛行機が丁寧に保管されていて、マニアには

WINTER SWL Fest の報告

毎年、2月または3月に開かれるラジオ・イベントで今年は3月初めに開催されました。開催地は、ペンシルバニア州のプリムスミーティング。私が1970年代に放送衛星の開発で米国駐在をしていた場所が隣町で土地勘があり知人も多いので、だいぶ以前から参加しています。今年は30周年ということで、例年より多くの参加者を期待していましたが、100人ほどで格段の差はありませんでした。これも米国の短波リスナーの老齢化の影響と考えられます。以前見かけた常連が年をとって参加できなくなっているようです。今年は、私以外に米国駐在のJSWC尾原会員が参加、二人で「日本の短波リスニングの歴史、現状、そして将来」について講演をしました。私は、JSWCの歴史と自分の英語習得に短波放送受信が大きな役割を果たしたこと、英語の知識が自分の仕事の上で大変有効であったことを話しました。尾原さんの講演は、チャートで60枚にも及ぶ重厚な内容で、参加者に大きな感銘を与えました。一枚目の表紙に講演者がOBAMAとあるのでアメリカ大統領かと思ったらMが斜線で消してありOBARAとなっていました。彼はまず日本の英語教育の問題を挙げ、「英語テキストの第一頁は、This is a penで始まるが、このフレーズを米国へ来て使ったことが無い」と説明すると会場から爆笑が起きました。次いで、英語化した日本語—テリヤキやヒパチなど米国で大衆化した食べ物や原語の日本語と違うことを述べました。思い起こすと私が米国出張を始めた1960年代後半、ちょうどチキン・テリヤキがブームになりかけていました。そのころ、米国土産を買って帰ると、それがメイド・イン・ジャパンでガッカリしたことが多かったです。その後メイド・イン・チャイナとなり、今も東南アジア製が多いです。BCLブームは、1970年代に起きましたが、尾原さんはまさにその時代のBCLです。彼自身、当時は情報不足で海外への好奇心を満たすのに短波放送が最適だったこと、そして語学の習得に、更にコレクション趣味を受信証で満たすのにBCLが適合してはまったと感じています。当時の若者の受信報告送付の熱意はすごく、それに必ず返信した局側のまじめさが好循環を生んでHCJBへは年6万通の受信報告が届きました。BCLブームは1970年中ごろから80年代初めまでですが、当時の中学生が主な年齢層で、その方たちが今や40代後半から50代になりました。これが日本の短波リスナーのメインの年齢層で、欧米に比べ20歳ほど若いと思われます。当時のラジオ受信機の写真を表示したところ歓声があがりました。米国のSWLにとっても日本の短波受信機は尊敬の的だったのです。今はSONYでさえ短波受信機の開発を止め、日本製の魅力は無くなっています。日本のSWL界の強みは、年齢層が欧米よりずっと若いこと、さらにハムフェアの参加者にも十代の若者がおり、これからも息長い活動が期待できると考えられます。

JSWCのLEGENDたち

七夕用の巨大竹でアンテナをつくり、自分の部屋で、AIRの音楽を背景にクラブ会誌の編集をしていた和田謙郎さん。戦中の短波受信の経験者でヒットラーの演説を短波で聞いた坪井達夫さん。放出軍用受信機での待ち受け受信。1952～3年ごろのDX局のベリカードを多数所持しておられる石川俊彦さん。辛抱強くクラブを経営。クラブが長く維持されてきた立役者と言える存在の白石晋一さんや飯沼勇司さん。長い間、クラブ会誌の総合編集長を務めてくれた私の大学の先輩の佐野嘉信さん。佐野さんが学生寮に残っていたアンテナを私が自分の部屋に引き込んで使わせてもらった昔の思い出が懐かしいです。一方で、有名な欧州のDXクラブ「D SWC I」が2016年末に閉鎖。後継スタッフの現れなかったことが最大の要因ときかれ、今後のクラブ維持の難しさを認識させられています。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

| きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送 | | 淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送 | |
|------------------|--------------------|-----------------------|-------------------------|
| 7月01日 | スペイン古道を往く 下竹 博 | 7月02日 | マリンバの調べ／希望のことば（ヨハネの福音書） |
| 7月08日 | アリゾナ BCL 談義（1）大武逞伯 | 7月09日 | マリンバの調べ／希望のことば（ヨハネの福音書） |
| 7月15日 | アリゾナ BCL 談義（2）大武逞伯 | 7月16日 | リスナーからの『お便り交換の時間』 |
| 7月22日 | 対馬丸撃沈事件の語り部（1）松木路子 | 7月23日 | マリンバの調べ／希望のことば（ヨハネの福音書） |
| 7月29日 | 対馬丸撃沈事件の語り部（2）松木路子 | 7月30日 | マリンバの調べ／希望のことば（ヨハネの福音書） |

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある